

令和4年度 第3回 学長選考・監察会議議事要録

- 1 日 時 令和5年1月20日（金） 13時28分から14時08分
- 2 場 所 日亜会館 会議室
- 3 出席者
(委員) 飯泉委員、植田委員、梅田委員、大西委員、北畑委員、結城委員、
米田委員、香美委員、山中委員、赤池委員、高橋委員、馬場委員、
土屋委員、松木委員
(陪席) 矢部監事、立木監事

4 議 題

(1) 学長の業務運営報告

国立大学法人徳島大学学長選考規則第15条に基づき、学長から業務運営報告を受け、職務が適切に遂行されていることを確認した。

その際、以下の質疑応答があった。

質問

国策遂行への期待も担っている医光連携事業について、今後どのように進めていくのか。

回答

「医光」は、本県の強み、特色となっており、大学並びに関係の諸機関等、総力で挑む事業となっている。本学の地方大学・地域産業創生交付金事業は、今、インキュベーションの時期にさしかかっているが、国、企業、自治体等から引き続き支援をいただき、さらに発展させて社会実装に向けて結実していきたい。

また、広報についても、企業、他大学等と互いに協力・連携し、地方だけでなく、国、世界に向けて幅広く発信していきたい。

質問

社会実装を進めるにあたって、研究者のマインドを高めるようなインセンティブやその他の仕組みがあれば教えてほしい。

回答

社会実装を進める仕組みは、大学だけではなく、国の支援、産業界の協力も得て発展させていくことが重要と考える。本学では、産業界や社会との結びつき、

また、社会実装につながるような組織として、「研究支援・産官学連携センター」及び「産業院」を設けている。

なお、「産学連携ファンド」を設立し、大学発ベンチャー企業への創業支援も行っている。

質問

学長のリーダーシップを発揮するにあたって、学長の思いやビジョン、また、これから制定する「徳島大学Vision2030～INDIGOプラン（仮称）～」にどのように反映しようとしているのか。

回答

私自身の思いは、大学は高等教育機関であり、いかに良い人材を社会に輩出するかが重要であると考えている。良い人材を輩出するには良い教育が必要であり、良い教育を行うには、良い研究が必要である。このことから、徳島大学Vision2030は、第1に教育、第2に研究ということにしたい。徳島大学Vision2030は、INDIGOプランとしているが、INDIGOの頭文字を使って大学の夢、目標とするべきキーワードを簡単な文言で表し、徳島大学の目指す方向を理解していただくものになりたい。

質問

新型コロナウイルス感染症の影響で、グローバル教育に大きな影響がでていますが、今後、どのような体制、組織再編を行い、本学のグローバル化、特に教育に関して進めていくのか。

回答

現在、グローバル化を進めるため、「国際教育研究院」の設置を構想している。研究分野は、テクニオン連携室と連携することで担えると考えている。教育分野は、現在は各学部が主幹とするグローバル化が進んでいるが、各学部がそれぞれ行っていた業務を水平統合することで効率化し、情報共有を図っていくことで大学全体の教育分野のグローバル化を進めていきたいと考えている。

(2) 次回の学長選考・監察会議の予定

今後、審議事項等を確認し、開催すべき案件がある場合は、令和5年11月下旬頃に開催することとした。

(以上)